



「風景」

1917年ごろ、水彩、紙
21.5センチ×27.5センチ

藤島武二（1867～1943年）

大川美術館の初代館長であった大川栄二は、この作品について、つぎのような言葉を残しています。

「私は桐生を離れ大阪で働いていた時に買った絵ですが、何か故郷の桐生川ダムと梅田の山あいを見る懐かしい抒情が浮かび、私には美しい生きている絵でした」

明治から昭和にかけて創作活動をした洋画家藤島武二が、桐生を訪れた記録は残念ながらありません。でも、この作品を手に入れた大川は、「故郷」の風景と感じたのでしょう。

大川美術館企画展から

〈名画の扉〉

（田中淳）